

霜・低温に伴う農作物の管理対策

令和3年4月7日

新潟県農林水産部

4月7日11時に発表された新潟県の週間天気予報によると、寒気の南下により、9日は曇一時雨か雪との予報で、11日までは最低気温が2～3℃となる場所もあると予想されており、この期間において山沿いを中心とした降雪や、場所によっては霜が降りる可能性があります。

については、下記の管理対策を参考として、今後の農作物の管理に十分注意してください。

1 野菜

(1) 育苗から定植までの管理

ア 育苗中の果菜類は、低温により定植が遅れる場合、苗の徒長が懸念されるので、午後に換気を行い育苗ハウス内の湿度を下げるとともに、かん水は少なめにし、鉢等の間隔を広げる。

イ 育苗後半は、定植に備えて外気に慣らすため、夜間の温度管理を低めに調整する。

ウ 定植前のほ場のマルチ、トンネルの被覆は、地温を確保し定植後の活着を促進させるため、定植の7日前までに行う。

(2) 栽培管理

ア 施設栽培（トマト・きゅうり・いちご）

(ア) 温度保持や霜害の回避のため、品目や生育ステージ毎に適した暖房機の温度設定や、夕方早めの内張り資材の被覆による日中の余熱確保により、適切な温度管理に努める。

(イ) 保温的管理により施設内等が多湿になると、灰色かび病等の発生が懸念されるので、適正な換気や花びらとり等の耕種的防除を行うとともに、薬剤散布を行う。

イ ハウスすいか

花粉の形成期に入るので、夕方から夜間の温度保持のため、午後早めにハウス及びトンネルを閉める。

ウ トンネルすいか

(ア) 定植直後のほ場は、霜害防止のため不織布のべた掛けやキャップを使用し、低温の影響を回避するため、活着までの3日程度は蒸し込み状態を維持する。ただし、晴天時は、高温による葉焼けを起こす危険があるため若干換気を行う。

(イ) 砂丘地で霜害が予想される場合は、降霜時刻に併せてスプリンクラーかん水(散水)を行う。

(ウ) 活着後は、トンネル内湿度を上げないよう換気を行い、夜間の温度保持のため、夕方早めにトンネルを閉じる。

エ アスパラガス

露地アスパラガスで萌芽直後の若茎が低温障害を受けた場合は、速やかに除去し、株への負担を軽減する。

オ えだまめ

露地えだまめの霜害を防止するため、トンネルやべた掛け資材等の被覆資材を活用し、保温的管理に努める。

2 果樹

- (1) 今後、開花期を迎える、なし、おうとう等は、結実確保のため、人工受粉を徹底する。
- (2) 発芽や展葉の状況を確認した上で、貯蔵養分の消耗による生育遅延を防ぐため、芽かきや摘らいを徹底する。
- (3) なしの黒星病やもものせん孔細菌病などは、低温多雨条件下で発生しやすいので、適期に防除する。
- (4) 降霜・降雹・降霰害が予想される場合
 - ア 防霜ファンの保守・点検を行い、燃焼資材を準備する。
 - イ 多目的防災網施設のある園地は、速やかに設置する。
 - ウ 降雹や降霰により新葉や幼果に傷害が発生した場合は、速やかに殺菌剤を散布する。

3 花き

- (1) 球根養成では、茎葉の霜害による褐色斑点病等の発生、更に低温が長引くと細菌性病害の発生が懸念されるので、予防的な防除を行う。無加温ハウスでは、夜間低温時、必要に応じてストーブ等で加温を行う。
- (2) 切り花及び鉢物等の施設栽培では、ハウス内温度を保つため、夕方早めに内張り資材を被覆する。
- (3) 無加温ハウスでは、夜間低温時、必要に応じてストーブ等で加温を行う。

4 きのこと

- (1) 事前対策として、霜の発生・気温の低下が懸念される場合は、きのこの品種や生育状況に応じた適切な温度管理に努める。
- (2) 事後対策として、生育状況の把握に努め、異常が認められた場合は、適切に対応する。